

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 八起会

- 法人本部
- 石部ケアハウス
- 石部デイサービスセンター
- 八起会居宅介護支援相談所
- 介護老人保健施設 石部ケアセンター（デイケア併設）
- 八起会ホームヘルプステーション
- 介護老人福祉施設 もみじ
- もみじデイサービスセンター
- もみじケアプランセンター
- 特別養護老人ホーム あぼし
- デイサービスセンターにこにこ
- 地域密着型特別養護老人ホーム みやのもり
- みやのもりデイサービスセンター
- 八起会みやのもりリハビリステーション
- デイサービスセンターこんぜの郷
- こんぜデイサービスセンター
- 八起会栗東居宅介護支援事業所
- グループホームみなくち
- デイサービスセンターあさひがおか

3人に1人が高齢者となる時代になり、2022年の介護需要の拡大はもちろんのこと、2040年まではさらに右肩上がりの増加が見込まれます。この先ますます高齢者の介護需要は上がっていくため、市場として見た際にはwithコロナといわれる介護業界は今後も拡大していくこととなります。

その一方で、社会保障給付費は増加の一途をたどっており、社会保障を支える生産年齢人口は年々減少しています。社会保障費が膨らむ中で、近年の介護報酬改定は適正化（切り詰め）を基本方針としており、その流れは継続される予定です。介護報酬切り詰めの流れは介護事業者にとって収益性を圧迫する大きな要因となっており、また、介護業界においては人材不足も深刻です。人材不足を受けて、重要になったのは業務の効率化です。これからの人材不足に高齢者・外国人材などの多様な労働力の活用や、ICT・AI・ロボット導入による生産性の向上が必要であることは間違いありませんので、まず施設内の動きをきちんと可視化して効率化を強化していくことが、これからの介護施設には求められます。

介護事業は介護保険にどうしても依存する経営体制となりがちですが、常に臨機応変に対応し、よりサービスとしての視点を持って事業に取り組む所存です。

法人本部 方針

1. 事業運営

- (1) 組織の体制および事業運営などの情報開示と透明性のある健全な経営と運営を行い、地域の中で信頼される事業所を目指します。また、事業活動を通じて社会的課題の解決を支援し、持続可能な世界を実現するため、SDGs目標達成への貢献に努めます。
- (2) 経営企画室を中核として第五次中期経営計画に取り組むことにより、「人材の確保・育成」、「安定経営に向けての事業展開」、「安定経営に向けての経営マネジメント」の3項目を軸に、諸課題の検討や解決に向かったの具体化を進めていきます。
- (3) 部次長会議において理事会、評議委員会をはじめ施設長会議に諮るべく諸問題や諸課題の協議調整を行い、各事業が円滑かつ公平に事業展開できるよう、本部と事業所間での連携・調整・情報共有を図ります。
- (4) 労務管理などのワークライフバランスに配慮した環境整備に努め、「働き方改革」に適応する人事制度体制の構築を図るとともに、滋賀県女性活躍推進企業認証制度の三ツ星、プラチナくるみんやえるぼしなどの厚生労働省認定企業を目指します。
- (5) 介護記録システムの統一されたマニュアルの策定、事務処理業務の本部一本化の検討など業務の効率化や負担軽減、生産性の向上を目的に介護現場における補助金を活用したICT化の推進と活用によりサービスの向上とブランド力向上につなげます。
- (6) 地域の関係機関や団体と連携を図るとともに、在宅高齢者への情報提供やサロン事業への支援に取り組めます。また、「八起会安心パトロール隊（青パト）」の積極的支援を行うとともに認知症カフェ等を含め、将来に向けて地域貢献のあり方について検討して行きます。
- (7) 地震等自然災害や感染症に対するBCP計画（事業継続計画）の策定を進め、事業継

続や地域の拠点施設としての機能が果たせるよう周知徹底を図ります。

- (8) 八起会ホームページの更新頻度のUP体制整備を行い、法人のPRや各事業所の最新の情報および取組みを積極的に発信するとともに様々な発信チャネルの検討を行います。また、コーポレートカラーやキャラクターを用い、法人の認知度やイメージを高め、「八起会ブランド」を強化します。
- (9) 新型コロナウイルス感染症の対策において、施設での取り組みだけでなく、職員や施設に出入りする業者なども含めて感染を予防する意識と現場から聞こえるリアルな声を反映した施策を講じ、法人内でのクラスター防止に努めます。

2. 組織・職員

- (1) 人材を確保するための専門学校や大学の訪問、学内企業説明会や各種就職説明会への参加はもちろん、本部と現場の役割を明確にし、現場への権限委譲など採用力を高めるためのスクラム採用導入に向けて、法人・各施設職員が一体となった活動を推進します。また、コロナ禍におけるオンラインと対面を併用した採用活動を行います。
- (2) 新型コロナウイルス感染症状況を見極めながら、専門学校や大学の学生を始めとする各方面からの実習の受け入れや、介護実務者研修の施設実習、市内小・中・高等学校などの福祉・職場体験についても引き続き積極的に受け入れます。また、キャリアビジョンの構築を目的とした大学生のインターンシップの受け入れも行い、状況によってはオンラインを利用し、職員採用に繋がるよう努力します。
- (3) EPA介護福祉士候補生や在留資格のある外国人、障がい者、高齢者など性別や国籍、年齢等に関係なく意欲と能力のある人材が活き活き、持続的に成長・発展できるようダイバーシティを推進します。
- (4) 経営対策委員会を通して、収益面だけでなく、質の高いサービスを維持できるよう業務面も考慮に入れた適正人員の算出における指標の作成を進めます。また、導入した人事管理システムを活用し、より多くの人事情報をデータ化・共有化することにより、有資格者の効率的な配置を行い、より質の高いサービス提供と効率的な加算の取得を行える体制を構築して行きます。
- (5) 適正な評価とフィードバック面接を通じて考課の内容を伝え、能力開発・教育・指導等に加え、「昇格」「昇進」「賞与」等に活用するとともに、職員が将来の目標に向けて意欲的に取組み、モチベーションの高い優秀な人材を集められるよう、人事考課制度およびキャリアパス制度の充実を図ります。また、研修履修情報等の情報管理の強化に努めます。
- (6) 法人内の研修体系を見直し再構築に取り組みます。知識・技術などの専門性の向上とマネジメント能力、コミュニケーション能力や豊かな感性を養う人間力の向上など充実強化を図ります。

- (7) 職員の自己申告等に基づく自発的向上意欲を尊重するなど、職員から意見を汲み上げたボトムアップによる事業運営を図り、職員一人ひとりに至るまで共通の意識と目標が浸透した職場づくりに向け、何でも言い合えるような風通しの良い組織を継続して目指して行きます。
- (8) 新型コロナウイルス感染症への対応における働く職員の肉体的・精神的負担が少しでも軽くなるように努めるとともに、生活習慣病予防、腰痛予防、ストレスチェックなど心身への負担緩和等、職員の健康管理面に配慮し、安全衛生委員会を通じて、安全や健康を確保するための対策に積極的に取り組み、安全・健康に働くことができる職場環境の整備に努めます。また、メンタルヘルスやハラスメントの把握と適切な運用や啓発活動を図ります。

3. 財務・コスト

- (1) 収益事業に対する規制を緩和しながら競争意識を育み、財政基盤の安定化を図ります。月次報告の期限内調整により事業の執行状況や経理上の課題を的確に把握しつつ、予算の補正などの対応を適切に行い、経理規程に基づいた適正な財務管理を継続します。
- (2) 法人、各事業所の資金・財産の適正管理を促進し、収支改善の実現を前提とした各事業所の利用状況・収支状況の一元的把握、経営指標の作成と経営分析などを行い、法人経営基盤の安定化を引き続き図ります。また、法人経営実態の情報を職員で共有し、経営意識を醸成することにより、健全経営に努めます。
- (3) 月ごとに事業所単位での人件費率管理を進めていくことにより収益と人件費のバランスをとり、上質なサービスと安定した経営の両立に努めます。
さらに、前年度比較を行い、プラス面・マイナス面共に早期に原因把握することで、運営の改善に努めます。
- (4) 公表されている他法人の財務諸表との比較、当法人の強弱の把握を行い、不採算事業所の業務および人員体制の見直しをはじめ、中長期的財務戦略を検討し、財務内容の改善と強化に努めます。
- (5) 「重要性の原則」に従って、正確かつ迅速で合理的な会計処理を進めます。さらに、事務一元化検討会議を通じて、物品の一括購入や請求業務、経理業務の一元化・統一化を進め、事務業務全体の効率化に努めます。
- (6) ICT化の急速な進化に伴うハード面・ソフト面・ICTリテラシー面でのセキュリティ対策を行い、リスクの高まりに応じた法人内のサイバーセキュリティを構築して行きます。また、職員一人ひとりの情報セキュリティ意識を高める教育を強化します。
- (7) 事業継続のための施設建物等の改修、修繕など予算構築も含め、ランニングコスト低減を見据えた中長期大型修繕計画を策定し、計画的な修繕への対応を引き続き行います。

➤ 石部ケアハウス

ケアハウスにおける共同生活の良さを生かしつつ、入居者個々の自主性を尊重し、入居者がその人らしく、生き生きとした生活を送ることが出来るよう支援します。

開設から 25 年を経過し、施設・設備備品等、点検修理・入れ替えを行い、入居者の安全な生活保持ができる環境づくりに努めます。

(1) 数値目標

- ・年間利用率 98.5% (令和3年度 98.3%)

八起会居宅介護支援相談所、八起会栗東居宅介護支援事業所、石部ケアセンター、特別養護老人ホームあぼし、地域密着型特別養護老人ホームみやのもりとの情報連携に努め、サービスの有効活用に努めます。

(2) サービス内容と生活の質の向上に向けた取り組み

- ・新型コロナウイルスおよびノロウイルス、インフルエンザ等の感染対策の徹底と、新型コロナウイルス収束後の各種サービスの早期再開。
- ・苦情、相談に対する迅速対応。
- ・一人ひとりの入居者への対応に時間が確保できるよう、支援に時間を要する方々の転居に向けた取り組みを早期に実施します。

(3) 職員の質の向上

- ・職員退職に伴う引継ぎを確実にを行うと同時に、業務内容・方法を見直しし、負担の軽減と分散化を図ります。
- ・感染拡大・クラスターを起こさない体制作りと研修の実施。外部研修への積極的参加。
- ・5S 活動とボイラー室址の倉庫の有効活用。

➤ 石部デイサービスセンター

住み慣れた家や地域で、いつまでも「その人らしく、安心して暮らせる」を実現できる質の高い介護の提供を目指します。幅広い多様な利用者ニーズに対応し、受入れ「地域丸ごとケア」を進め、地域に信頼される事業所づくりに努めます。

(1) 数値目標

年間利用率 71.4% (令和3年度 62.8%)

要介護：月 600 名 (1 日平均 24 名)

要支援：月 25 名 (1 日平均 1 名) 合計：月 625 名 (1 日平均 25 名)

現在の実利用者数 54 名を 60 名に増やし、より多くのサービスを必要とする方に利用いただけるように努めます。

(2) 事業所アピール

法人の居宅介護支援事業所や利用者家族との密な連携を図り、自事業所に足りない部分の把握に努め、運営に活かします。

(3) サービスの向上

- ・利用率の向上に伴い、職員 1 名当たりの負担が増加しても利用者満足度が低下しないよう職員個々のスキルアップを図ります。
- ・職員による支援差がないようにマニュアルの構築を図ります。
- ・利用者および家族へのアンケートを実施し、結果の公表並びに改善提案や要望に対しては速やかな対応に努め、信頼獲得に繋がります。
- ・事業所内勉強会を毎月開催し、また、認知症等の外部研修についても積極的に参加できるように努めます。
- ・新型コロナウイルス感染症の対策強化のため、委員会の開催、指針の整備、研修や訓練の実施等を行います。

➤ 八起会居宅介護支援相談所

「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代の全てが 75 歳以上となる 2025 年に向けて「ケアマネジメントの質の向上と公正中立性の確保」、「人材確保・業務負担軽減」、「制度の安定性・持続可能性の確保」を基盤として運営を推進していきます。また、介護費用額は年々増加傾向であることから、高齢者の介護予防、自立支援・重度化防止に取り組み、保険料の抑制につなげていく必要があり、制度の安定性・持続可能性が重要になっていくと思われまます。

つきましては、八起会居宅介護支援相談所として、以下の項目を重要視して令和 4 年度の事業を行い、地域でさらに信頼される事業所を目指していきます。

(1) 業務継続計画（BCP）を構築します。

新型コロナウイルス感染症や災害の発生時においても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供できる体制を構築します。感染症対策の強化として、指針の整備、定期的な委員会の開催、研修の実施、及び訓練を実施していきます。出勤時、業務途中の検温、マスクの着用、手洗いうがい、事務所内の消毒、定期的な換気、食事時の席の分散、訪問前の利用者・利用者家族の健康状態の確認や訪問ごとの手指消毒、訪問先の記録等を継続的に行うことで感染症予防に努めます。また、継続的に支援が提供できるように計画の策定、各関係機関との連携体制の確保、想定した訓練の実施体制等を構築していきます。

(2) ケアマネジメントの質の向上と公正中立性の確保を継続していきます。

湖南省内で高齢者が増加する中で、地域で信頼される事業所を目指し、また、引き続き、利用者や利用者家族にその方のニーズに応じた事業所を利用していただけよう

公正中立なケアマネジメントの確保を行っていきます。そして、他法人の居宅介護支援事業所との共同の事例検討会・研修会、及び地域包括支援センターによる事例検討会などへの参加も引き続き行い、地域ケア会議等も活用しながら他分野の専門職の知見に基づくケアマネジメントの技術の向上に努めます。また、自己評価や第三者評価を実施し、居宅介護支援専門員一人ひとりが資質向上の目標を掲げ、内外部の研修会や講習会に積極的に参加し制度や知識の理解、習得のため、自己研鑽に努めます。24時間連絡体制についても継続して、さらなるサービスの質の向上に努めます。

(3) 業務の効率化と業務負担軽減の推進を行います。

運営基準において実施が求められるサービス担当者会議等や法人内の各種会議、研修について、web 会議システム (zoom) 等をできるかぎり活用していきます。また、記録や保存書類について、電子媒体を活用することで業務効率化を図れるように検討していきます。

(4) 高齢者虐待の発生防止の推進を図っていきます。

虐待の防止のための対応策を検討する委員会を定期的で開催し、各介護支援専門員に周知徹底を図ります。さらに虐待防止のための指針を整備し、そのための担当者を配置するとともに研修を定期的実施します。

(5) 医療、福祉の関係機関との連携の推進を継続して実行していきます。

入退院時の病院や各関係機関との連携を図り、利用者、利用者家族が安心して生活していただけるように支援していきます。また、日常的に、主治医や歯科医、薬剤師、訪問看護師とコミュニケーションを図るとともに、積極的に医療機関との連携を図ります。

(6) 働きやすい職場づくりに努めます。

毎週 1 回の事例検討等の勉強会を行い、各担当ケースの情報共有をするように努めます。また、日々過酷な感情労働に携わる職種であることから、計画的に年次有給休暇を取得することでリフレッシュを行うこと、明るく笑顔の絶えない職場づくりを心掛けることにより、ストレスによるバーンアウトを引き起こさないように心身の健康管理に十分配慮します。

➤ 石部ケアセンター

《入所》

介護老人保健施設の在宅復帰・在宅療養支援をさらに推進する観点から、基本に立ち返り利用率の向上を果たすべく努力を行うことは勿論、「包括的ケアサービス施設」「リハビリテーション施設」「在宅復帰サービス」「在宅生活支援施設」「地域に根ざした施設」等の制度下における介護老人保健施設の理念と役割を追求するとともに、利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら生活機能の維持・向上を図り、家族や地域の人々・機関と

協力し、安心して自立した生活が続けられるよう総合的に支援することを目指します。

そのために、令和4年度目標として下記の項目を掲げ、実践していきます。

- (1) 在宅復帰・在宅療養支援機能の強化を図りつつ、安定した収益を確保すべく、年間利用率94%、月平均利用71.5床を目指します。
- (2) 在宅復帰を目指し、利用者ごとの解決すべき課題を適切に判断し、利用者の心身機能の維持と回復を図りながら、様々なアプローチでリハビリテーションを提供します。
- (3) 短期集中リハビリテーションマネジメント加算の積極的な算定を目指します。
- (4) 利用者の安全を確保するための取り組みとして、緊急時（事故、感染症の発生時など）における利用者の安全確保の為に体制をより高め、サービスの維持継続を行います。
- (5) 最新の情報を得ることにより、感染対策の更なる強化をしていきます。
- (6) 医師との連携を図り、救急搬送や入院が少なくできるように、異常の早期発見、適切な医療の提供を心掛けていきます。
- (7) 在宅復帰に向け利用者、利用者家族に適切な支援をしていきます。
- (8) 質の評価やデータ活用を行いながら、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスを行い、自立支援・重度化予防対策を行います。
- (9) 職員の質の向上に向けた体制がより確立できるよう人材育成を強化します。また、外国人採用者に対する指導體制の構築を進めます。
- (10) 地域との交流及び社会貢献をより推進するため、関係機関や居宅介護支援事業所への定期訪問を行い、多様なニーズの把握を行います。
- (11) 建物・設備の定期的な改善し、快適性や安全を維持できる取り組みを行います。
- (12) 業務改善を進め、残業の減少、有給休暇の取得率向上など、労働環境の改善を図ります。

《石部デイケア》

石部デイケアでは、通所リハビリテーションとして専門性を高め、様々なアプローチから利用者の心身機能の維持・向上に努めていきます。また、感染症やさまざまな災害に対応できるような対策や厚生労働省への情報提供、フィードバックを受けながら科学的に裏付けされた介護サービスの促進などに新たに取り組んでいきます。

湖南省及び周辺地域においても、地域のリハビリ事業所として、ますます求められる責任と果たすべき重要な役割を担うべく、地域との連携強化にも努めていきます。また、医療・介護などのチーム連携もより必要とされており、多職種連携を強化し、職員間のチームワークを大切にしつつ、互いに高め合い、より上質なリハビリテーションやサービスの提供ができるように努めていきます。

介護サービスというサービス事業所としての基本を念頭に置き、「挨拶」「言葉遣い」「礼儀」「気配り」といった基本的マナーを重視し、利用者家族も含めた利用者へのサービス向上に努めていきます。

そのために、令和4年度目標として下記の項目を掲げ、実践していきます。

- (1)職員一人ひとりが法人・施設の理念を理解し、通所リハビリテーションとしての役割や機能を十分に発揮します。
- (2)利用者の心身機能の維持と回復を図り、自立した在宅生活が継続できるよう様々なアプローチでリハビリテーションを提供します。
- (3)リハビリテーションの効果を可視化できるよう、3カ月ごとに体力測定を行い、そのデータを利用者やその家族、介護支援専門員等と共有することで、石部デイケアでの取り組みや通所リハビリテーションの重要性を理解していただけるよう取り組んでいきます。
- (4)より多くのサービスを必要とする方に提供できるよう営業エリアを草津市の一部（山寺町地区）まで広げ、新規利用者の獲得や平均利用率70.6%（1日平均利用人数24名）を目指します。
- (5)リハビリテーションマネジメント加算（A）（B）の算定を目指し、医師との連携や組織作り、業務改善等を行っていきます。
- (6)短期集中リハビリテーションマネジメント加算の積極的な算定を目指します。
- (7)利用者ごとの解決すべき課題を適切に判断し、個別性の高いリハビリの提供を目指します。
- (8)新型コロナウイルス感染症や様々な災害に対応できるよう、感染症対策強化やマニュアルの見直し・作成、シミュレーションなど、日ごろからの備えと業務継続が行えるよう取り組んでいきます。
- (9)介護保険制度の目的にそって、質の評価やデータ活用などを行いながら、科学的に裏付けられた質の高いサービスの提供が行えるよう、研修会や厚生労働省への情報提供システムなどの活用を推進し、それらによる加算算定を目指していきます。

➤ 八起会ホームヘルプステーション

介護報酬改定に伴い「地域包括ケアシステム」をより推進させる取り組みが急速に進み、その中で在宅医療と介護連携の推進、認知症施策の推進等を謳っており、訪問介護事業は重要な役割を担うこととなります。

以上のことから令和4年度は、以下の行動目標を掲げます。

- (1)利用者の心身の特性を踏まえ、その有する能力に応じ、自立した生活を営むことができるよう支援を行います。
- (2)利用者・利用者家族のよき相談相手となれるよう、職員一人ひとりの人格向上を通じ、高い倫理感と使命感の醸成に努めます。
- (3)利用者のサービス向上のために自己研鑽に努め、月1回の会議においても研修時間を設け、より高い知識の習得や技術の向上を図ります。

- (4) 利用者の人権（プライバシー・虐待防止）と尊厳、コンプライアンスを守り、信頼される事業所を目指します。
- (5) 感染症の発生及び蔓延防止等に関する取り組みの徹底（委員会、指針の整備、訓練）月1回の会議において感染対策の再認識のための確認を行います。
- (6) サービスの向上を図り地域から信頼される事業所となれるように、家庭、医療系サービス、他介護サービス事業所、居宅介護支援事業所、行政等との連携強化を図ります。
- (7) 利用者の心を和らげ安心できるよう、八起会のモットーである【にこやか・なごやか】に努め、寄り添う介護を目指します。

➤ 介護老人福祉施設 もみじ

令和3年度に施設開設から20周年を迎えた介護老人福祉施設もみじのある東近江市では高齢化が進んでおり、特に永源寺地区では顕著な高齢化とともに人口の減少も伴って進んでいます。東近江市の最東部に位置する当事業所は地域にとっての重要な位置づけとされており、医療・福祉の連携強化が必須となっています。

また、社会資源の少ない地域の中で住民にとってその存在意義を高めていくためにも、地域とのつながりを継続し情報発信に努めるとともに、自家発電装置の導入により災害時の地域の福祉拠点としての対策もできるようになりました。また各感染症により行事は自粛傾向にあるものお互いに協力していけるように関係作りを継続します。

昨年に引き続き職員全員の「発想力・実行力の向上」を目指し、感染防止のための面会制限はある中でも家族満足度の高い介護サービスの提供を行います。

《入所》

- (1) 入所者の選定をスピーディーに行うことで、サービスを必要としている次期利用者が入所されるまでの空床期間を短縮し、介護を必要とする方が1日でも早く入所できる体制の構築及び会議の開催を継続します。（利用率98%）
- (2) 介護保険制度が在宅重視にシフトされる中、「住み慣れた地域で、安心していつまでも暮らしたい」という要望を実現させるため、長年暮らした家や家族と離れても、介護老人福祉施設もみじが安心して暮らしていただける第2の我が家となり、最終の看取りまで含めた安住の場所になることを目指します。
- (3) 各感染症の予防に努め、最新の情報を取り入れ研修等を実施しながら、施設内拡大を防ぎます。
- (4) 機器の導入や施設の修繕により介護負担の軽減と環境美化を積極的に行い、長く勤められる施設への環境改善を行います。
- (5) 新卒・中途採用にかかわらず現場の教育では、OJTでの育成能力を高めるとともに組織での教育基盤を構築します。

《ショートステイ》

- (1) 在宅での生活継続を支援する事業所として、また、地域ニーズへの対応のため安定したサービスの提供を行います。(利用率 80%)
- (2) 各感染症の施設内への持ち込みの可能性を最小限にとどめるため、事前に体調の把握等の情報収集に努めます。
- (3) 空室状況は早期に各介護支援事業所に発信し、急なキャンセルに伴う利用率の低下を最小限に留めます。

➤ もみじデイサービスセンター

- (1) 送迎を含めた全体的なサービスの質を向上すると共に、より多くの方にサービスを提供できるよう利用率に関しては通常規模単価条件の 750 名/月未満を目標に、さらなる向上に努めます。(利用率 80%)
- (2) 近隣の通所介護事業所の閉鎖に伴いサービス利用者が、新規利用につなげていただけるような働きかけを行うよう、レクリエーション等の強化をします。
- (3) 空き情報を有効に活用し、利用日数を増やしたい利用者に対し、スポット提供を行い、利用しやすい環境を継続して行います。
- (4) 感染症対策として、施設内への持ち込みの可能性を最小限にとどめるため、事前に体調の把握等の情報収集に努めます。
- (5) 運営上の問題点は何か、そのために何をすべきかを各々が考え実行できる体制づくりを構築していきます。
- (6) 条件の確認を含め、施設内の調整を図りながらできる限りの加算の取得に努めます。

➤ もみじケアプランセンター

東近江市の高齢化率は令和 4 年には 27.6%、永源寺地区においては 38%を超える高齢化率となっておりますが、高齢者人口としては横ばいの状況です。もみじケアプランセンターでは永源寺地域の拠点となり、各関係機関との連携を図り、介護サービスへの相談の第一段階を担います。積極的に介護サービスが利用できる体制を各事業所と構築しながら、安心感のある相談窓口として機能するとともに、地域の状況の把握と必要な情報の発信を行います。また、同施設内事業所との連携を強化します。

- (1) 利用者や利用者家族がいつでも連絡や相談がしやすい体制を維持し、安心して在宅生活を送れるように、専門職としての知識を深め、社会資源の発掘や情報収集とその提供を行います。
- (2) 感染の拡大防止や業務効率化のため、サービス担当者会議や各研修について可能な限

り ICT の活用を行います。

- (3) 支援困難ケースの受け入れに対しても、地域の人々や他職種との連携を図り、地域での生活が維持できるように努めます。
- (4) 加算の維持に努め、必要な研修と情報共有を行い、また実習生を受け入れ、次世代の介護支援専門員の育成に貢献できるように努めます。
- (5) 地域ニーズの把握に努め、潜在的に支援が必要な方へのアプローチすると共に介護サービスへと繋げられるように努めます。

➤ 特別養護老人ホーム あぼし

令和4年度も全職員が八起会の理念、あぼし運営方針に基づき「利用者本位のユニットケア」に努めます。人材の確保が難しい情勢の中、業務の合理化や機械化を進め、利用者処遇の向上と働きやすい職場環境づくりを行います。

また、地域との交流をさらに深め、交流と情報発信の拠点としての機能を強化します。

《入所》

- (1) コロナ禍で、疎遠になりがちな入所者家族とのつながりを維持するため、ネット環境を整備し、オンラインでの面会を実施していきます。
- (2) 入所者が自身の尊厳を保持しながら、その有する能力に応じ自立（自律）した日常生活を営むことができる環境条件を一層整備していきます。
- (3) 24時間365日、健康で安心した楽しい生活が送れるよう健康管理に努めます。主治医との連携を深め入所者、入所者家族の医療ニーズを尊重し、また、機能訓練指導員のもと生活上でのリハビリに取り組みます。
- (4) 入所者が快適で、自主性を尊重し安心した生活ができるよう、形式的なケアプランでなく一人ひとりのプランの充実と実施で「その人らしさ」を追求します。また、介護支援専門員が中心となり他職種との連携のもとケアプランを作成し、個別ニーズに適応するサービス提供を実施するとともに、入所者家族や関係機関との連携を密にしてサービス向上に努めます。
- (5) 食事については入所者個々の「栄養計画」に従い栄養管理を行うとともに行事食や季節感のある食事を取り入れ、「食の持つ意味」を考え、「健康保持」、「疾病予防」に努めます。また、口腔機能向上において歯科医師の指示のもと各職種と食中毒、感染対策等、衛生面にも連携し取り組みます。
- (6) 認知症ケアにおいては、より一層の専門性が求められるという視点から、認知症の行動・心理状況への緊急対応・若年性認知症対策を視野に入れ、入所者や入所者家族の希望を踏まえたサービスを提供します。
- (7) 職員の能力向上、地位向上は、より良いケアの向上に繋がるものであり、職員一人ひ

とりが自覚を持って技術研修・研究に研鑽し、ケアの方針・技術・倫理の向上を図るとともに、介護福祉士の資格取得に取り組みます。

- (8) 看取りケアを従来通り実施し、入所者の思いに最後まで寄り添えるように他職種連携を行いながら進めていきます。また、入所者家族に対する精神的支援においても同様に実践します。
- (9) 待機者の情報更新を随時行い、次期入所者選定に要する期間を短縮し、より多くのサービスを必要されている方に利用していただけるよう利用率の向上に努めます。
- (10) 団塊の世代の方全員が後期高齢者となる 2025 年を踏まえ、利用者増加やニーズに対応するため、外国人介護人材を含め広く人材確保・定着に努めます。

《ショートステイ》

- (1) 居宅事業所との連携を密にし、幅広く利用者や利用者家族の要望に対応できる体制づくりを行い、選ばれる事業所を目指します。
- (2) 地域にとっての必要な事業所となるようサービスの質の向上に努めることにより、利用者満足度の向上を目指します。
- (3) 利用者へのサービス提供は、各利用者の個別ケア計画に基づき自らの生活習慣に沿った自立的な日常生活を営むよう援助いたします。
- (4) 各ユニットの利用者との生活の中で社会的関係を築き、レクリエーション・行事等で生きがいのある生活を援助いたします。
- (5) 利用者家族との結びつきを重視するとともに、関係市町、居宅サービス事業所、地域の福祉・医療サービスとの連携に努めサービスの向上を図ります。

➤ デイサービスセンターにこここ

認知症対応型デイサービスの役割として、高齢者が今までどおりの地域でサービスを受けながら生活できることはもちろん、認知症についての理解が深い職員がサポートして、その方の個性を活かし当事業所が楽しく活動できる場所となるようなサービス提供をしていきます。また、裁縫・ちぎり絵・編み物・小物制作・体操・畑での野菜・花を育てる等、利用者の能力に応じた活動をし、季節を感じられる四季折々の行事を行う事で懐かしい時期を思い出していただき、いろいろな話題を提供することにより少しでも進行を遅らすことができるように努めます。職員が笑顔で対応していくことで楽しい居場所を提供し、利用者家族の介護に対する思いを傾聴し少しでも寄り添える関係を構築していきます。

認知症地域支援事業（カフェ・介護なんでも相談所等）については、開設から 7 年が経過しましたが、引き続き、地域の方々の憩いの場として、いつでも相談できる場所として、新型コロナウイルス感染症の対策を徹底しながら、令和 4 年度も継続していきま

す。

最後に、質の高い認知症ケア実践のために、認知症への理解を深めること（研修への参加、ケアのポイントについて職員間で見直す機会を持つ等）を怠らず、常に専門職として自覚を持って利用者と接します。

- (1) 認知症になっても自分の個性や能力を活かし活躍して頂ける機会を設け、達成感を味わって頂く（壁紙制作・塗り絵・ちぎり絵・絵葉書・花壇・畑・編み物・裁縫・五目並べ等）。認知症の症状をと向き合いその方に合った物の提供。利用者家族・ケアマネジャーへの連絡・報告・相談を密にする。
- (2) 在宅での生活を維持する中で、機能訓練指導員（看護師）の指導の下、リハビリを行い、日常生活能力の維持・向上を目指します。
- (3) 利用者の尊厳を大切に、ストレスなく笑顔が多く見られるような関りをする。内容として、懐かしい話題（回想療法）・集団体操（百歳体操）・脳トレ（計算問題・間違い探し）・歌等
- (4) 収入面においては、利用率は100%を最大目標としますが、現状を踏まえて62%（平均利用者数7.5名）を令和4年度の目標とします。その為に、当事業所の特徴をアピール（ブログ掲載・広報活動）、居宅介護支援事業所との連携をとり、目標達成を目指します。
支出面では、変動費（水道光熱費や物件費）の削減に努め、経常利益率を高めます。
- (5) 「地域における公益な取り組み」として、地域の方々が気軽に来て下さる憩いの場として、「にこにこカフェ」・「介護なんでも相談所」を継続して開催します。そこで、認知症の勉強会や啓発活動、悩み相談を積極的に行うことで、認知症や介護保険制度等に関する理解を深めつつ、八起会に興味を持って頂ける機会を作っていきます。月2回が楽しみになるような内容にしていきます。令和3年から始めた、地域の皆様対象に「介護者の集い」を開催し、仲間と話す機会が必要だと感じ令和4年も年2回開催します。
- (6) 新型コロナウイルス感染症の対策として、感染症対策の徹底に努めます。

➤ 地域密着型特別養護老人ホームみやのもり

令和3年度から「サービス・ケアの質の向上」を目標に掲げ、看取りケアを含め一人ひとりのニーズに合わせた多様なサービスの提供に努めてきました。令和4年度もさらなるサービスの質の向上を図れるよう、職員の育成や感染対策、業務改善・効率化を図り、「選ばれる施設」を目指します。

施設としての「社会的責任を果す」・「事業として適正な利潤を求める」ために、待機者から次期入所者の選定については、事前の面接を徹底して「退所から入所」までの待機期間の短縮に努めます。また、入所者の健康管理に留意し、病状等に対し、早期発見、

早期治療を行うことで重症化を防ぎ、長期入院等に至らないよう努めていきます。さらに、感染症等にも細心の注意をはらい、施設内での感染が発症しないよう予防対策に努めます。また、発症時の拡大防止のため、感染症対策を徹底していきます。感染症が懸念される中ではありますが、できる限り地域との交流を行い、八起会として地域に貢献できる活動も行っていきます。

年々、利用者が重度化していることから、職員の負担が増強しつつあります。職員の体調管理を含め、利用者が安心・安楽に生活できるようにAI等の活用も進めていきます。

令和4年度も「特別養護老人ホーム入所者の医療ニーズへの対応・認知症高齢者への専門ケア等」の実現を目指すために、「喀痰吸引の認定特定行為業務従事者」・「認知症の各研修」・「介護福祉士」等の有資格者育成に注力します。

併設ショートステイについては、利用者・利用者家族の満足度を上げられるよう、サービスの質はもちろん接遇面の向上に努め、さらなる利用率の向上を目指します。また、居宅介護支援事業所との連携を密に図り、新規利用者や緊急利用者の受け入れを積極的に進めていきます。

《入所》

- (1) 入所者の個々の生活リズムや価値観を尊重し、住み慣れた地域でこれまでの生活と変わることなく過ごせる環境づくりを行います。
- (2) 健康で安心した生活を送れるよう、主治医との連携を深め、入所者や入所者家族の医療ニーズを尊重し健康管理に努めます。
- (3) 入所者の自主性の尊重と自立の支援を行い、安心した生活を送れるよう、食事・入浴・排泄・機能訓練を含め充実したケアプランを作成し、一人ひとりの特性に合わせたサービスの提供に努めます。
- (4) 施設で終末期を迎えられる入所者に、本人の思いに近づけられるリビングウィルを確認しながら、他職種間や入所者家族との連絡を密にとり、人生最後の時間を安心して過ごしていただけるよう看取りケアを実施します。
- (5) 感染対策マニュアルや災害時マニュアルの見直しを行うと共に、全職員への周知・徹底をしていきます。
- (6) サービスの向上につながるよう職員一人ひとりが自覚を持ち、研鑽を積み、能力向上を目指すとともに、介護・支援を行う上での重要な基本的マナーの向上に努めます。
- (7) 地域密着型サービスであることを常に意識し、「地域と共に歩む施設」の実現に向けてコロナ禍の中でも可能な範囲で、地域・近隣の方々との交流を積極的に実施し、入所者の社会生活の場を広げられる支援に努めます。

《ショートステイ》

- (1) 在宅で生活されている要支援・要介護者の自立へ向けての支援サービス、また、利用

者家族の介護負担の軽減を図れる支援に努めます。

- (2) サービス提供に関して、各利用者の個別ケア計画に基づき、個々の生活習慣に沿った日常生活が送れるよう、他職種・併設デイサービス職員との連携を図りサービス向上に努めます。
- (3) 利用者に生活意欲を見出せるなど、刺激ある時間を提供するとともに、地域社会にかかわれる交流の場としても活用できるサービスを提供します。
- (4) 在宅での生活継続を念頭に置き、筋力低下を防ぐため生活リハビリを提供します。
- (5) 利用者・利用者家族に満足していただけるサービスを提供するため、職員として福祉を提供する倫理観とサービスを提供するための接遇の向上に努めます。

➤ みやのもりデイサービスセンター

在宅介護が重視される中、リハビリを目的とされる軽度な方から重度の認知症高齢者や医療依存度の高い方など、デイサービスのニーズは多様化しています。地域包括ケアシステムにおける、デイサービスの役割を十分に果たせるよう、みやのもりデイサービスセンターの設備や環境等を活かし、多様化するニーズに迅速かつ柔軟に対応していくことで、数あるデイサービスの中からみやのもりデイサービスセンターを選択していただけるよう努めていきます。

また、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、予防対策を万全に行い、安心して利用していただけるよう努めていきます。感染症が懸念される中で活動内容が制限されることもあります。感染対策を取りながら、新たな行事や企画に取り組んでいきます。また、可能な限り地域との交流やショートステイとの連携を深め、より多くの利用者に継続的に利用をしていただけるよう努めます。

- (1) 利用者に、生き生きと自分らしく生活していただくため、利用者、利用者家族、関連事業所等との連携を密に取り、可能な限り継続的な在宅での生活を支援します。
- (2) 利用者が満足し、かつ活躍の場を見出せるようなレクリエーションや行事を企画し、身体的精神的機能の維持・向上に努めます。
- (3) 在宅で生活されている要支援・要介護者の自立へ向けての支援サービス、また利用者のみならず、利用者家族の介護負担の軽減を図れる支援に努めます。
- (4) 職員間の連携を密に取り、働きやすい職場環境づくりに努めます。
- (5) 職員へ各種研修参加、資格取得、自己研鑽等を促すとともに、「挨拶」「言葉遣い」といった基本的マナーの向上に努めます。

➤ 八起会みやのもりリハビリステーション

総合事業の目的である「健康づくりと介護予防」を実現していけるよう、みやのもり

リハビリステーションの強みである、リハビリ機器を最大限活用し、利用者が在宅で「自立した生活」、「安心・安全な生活」が継続できるよう、リハビリステーションの役割を果たして行きます。また、リハビリステーションに通うことで、生活の意欲や生活の中の楽しみの一つとなるよう、働きかけていきます。

- (1) 専門的な知識、技術を元にリハビリプログラムを実施します。
- (2) 利用者の意思、人格を尊重し常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めます。
- (3) 行政や居宅介護支援事業所との連携を密に図り、利用者が安心して在宅生活を送れるよう支援します。

➤ デイサービスセンターこんぜの郷

認知症高齢者が住みなれた自宅・地域で生活が継続できるよう、認知症対応型通所介護の役割を十分に理解し、特性を活かしながら運営していきます。また、地域推進事業や地域の活動等を通して、認知症ケアの重要性をより理解していただけるよう取り組んでいきます。

介護については、その人らしさを大切に意志や人権を尊重し、一人ひとりに合わせた環境づくりや自己実現、自己表現ができるデイサービスを目指します。また、認知症高齢者を抱える家族の介護負担の軽減が図れるよう、相談や援助等を行い利用者だけでなく利用者家族からも信頼され、必要としていただける事業所を目指します。

各居宅介護支援事業所や行政との連携を図り、デイサービスセンターこんぜの郷を地域に深く浸透させ、年間平均利用率 20%を目指します。

令和 4 年度の目標として、下記の項目を挙げ実践していきます。

- (1) 八起会栗東居宅介護支援事業所及び他居宅介護支援事業所と連携を図り、金勝地区の認知症高齢者の「よりどころ」となるよう受け入れ態勢を整備します。
- (2) 地域密着型事業である認知症対応型通所介護の特性を打ち出し、利用者にとって穏やかな時間と空間が過ごせるように努め、他の一般型通所介護事業所との差別化を図り、利用者及び利用者家族にとって必要とされる事業所を目指します。
- (3) その人のプライバシーを守り、「人権」と「尊厳」を尊重し、認知症となっても住み慣れた我が家で生活が送れるよう支援します。
- (4) 利用者に満足していただけるサービスを提供するために、職員一人ひとりが事業所の理念を理解し研修等に参加し認知症の知識をより深めチームケアに努めます。
- (5) 利用者の残存機能等を活かし、生活意欲の向上につながるような行事やレクリエーションを企画し、サービスの向上に努めます。
- (6) 認知症対応型通所介護の特色や必要性を地域の方へ理解していただけるよう、地域活動への参加や講習会などを企画していきます。また、認知症カフェ（にこにこカフェ）も引き続き行政と連携しながら実施していきます。（年間開催回数 6 回）

- (7) 新型コロナウイルス感染症が拡大する中、感染症対策の為、指針の整備や研修、訓練の実施、最新の情報を取り入れ、外部から事業所内への持込を最小限にとどめる為、「新型コロナウイルス感染症対策チェックリスト」を活用し徹底して感染予防に努めます。

➤ こんぜデイサービスセンター

在宅介護が重視されている中、各居宅介護支援事業所や医療関係者との連携を図りながら、通所介護の役割を十分に理解し、地域に根ざした運営に努めます。多数ある通所介護事業所の中から、当事業所を選択していただけるよう、施設の特徴（リハビリ設備や入浴設備など）を活かし、利用者・利用者家族のニーズにできる限り対応していけるよう努め、年間平均利用率 75%を目指します。また、ハード面だけでなく、より一層サービスの向上を目指し、常の介護は、利用者を基本に人格・人権を尊重しつつ満足していただけるサービスの提供に努めます。さらに、地域との関わりを増やしていけるよう、感染症対策を徹底しつつ地域活動等の参加にも積極的に取り組み、信頼していただける施設を目指します。

令和 4 年度の目標として、下記の項目を挙げ実践していきます。

- (1) 利用者に満足していただけるサービスを提供するために、職員一人ひとりが施設の理念を理解しチームケアに努めます。
- (2) 八起会栗東居宅介護支援事業所、他の居宅介護支援事業所及び関係機関等との連携を図り、地元の皆様から信頼され、信認される事業所となるように努めます。
- (3) 利用者にとって楽しく、心安らぎ、居心地の良い事業所（場所）となるように、介護についてはもちろんのこと、挨拶、接客態度、言葉遣い等、研鑽に励み、満足していただけるサービスを目指します。
- (4) 利用者の意向を重視しながら、利用者の残存機能を活かし、生活意欲の向上につながるような、行事やレクリエーション、リハビリを実施し、利用者満足度の向上に努めます。
- (5) 新型コロナウイルス感染症が拡大する中、感染症対策の為、指針の整備や研修、訓練の実施、最新の情報を取り入れ、外部から事業所内への持込を最小限にとどめる為、「新型コロナウイルス感染症対策チェックリスト」を活用し徹底して感染予防に努めます。

➤ 八起会栗東居宅介護支援事業所

令和 4 年度の事業を以下の項目で実施し、地域から信頼される事業所を目指します。

- (1) 「住民に身近な圏域」での「我が事・丸ごと」他人事を「我が事」に変える働きかけ

を地域に発信し、「どのような地域に住みたいか」を話し合える土壌づくりを行い、「楽しい」「やりがいがある」と思わせる取り組みを地域住民に促し、「深刻な状況にある人」に対して自分たちのチームで何かできないかと思える意識づけを行います。

- (2) 新型コロナウイルス感染症のマニュアルに沿って、訪問時のソーシャルディスタンスや事務所・車内を消毒等により衛生面を保ちます、また法人の感染症対策研修に参加して常に意識できるよう取り組みます。
- (3) 栗東市内 5 事業所との合同の研修会についても 6 月と 11 月の年 2 回参加します。毎週 1 回の事例検討会等を通して、アセスメント力やマネジメント力等支援技術について向上するよう取り組みます。
- (4) 介護支援専門員のメンタル（精神面）について、趣味に特技に計画有給休暇制度等も活用し、一人で抱え込まずバーンアウトにならないよう、他の介護支援専門員でフォローできる体制を構築します。また、常に相談できる体制をとり、チームワークを大切にしていきます。
- (5) 各種人権研修に積極的に参加し、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントを起こさない。八起会の一員としての自覚を持ちます。
- (6) 災害時には事業所独自のマニュアルに沿って、①停電時の対応（エアマット、電動ベッド、吸引器や在宅酸素等）②利用者の状況（同居家族、親族）③安否確認の優先順位④利用者情報（緊急連絡先等）と市内の防災マップや事業所のリスク管理（データ管理）を迅速に行い、法人や栗東市（包括支援センター）、金勝地区と連携をして対応する。その為に、自身の生命を最優先に守り、各関係機関との連絡体制の確保を行います。
- (7) 利用者、利用者家族からの信頼関係を構築し苦情が起こらない居宅介護支援事業所を創ります。
- (8) 新型コロナウイルス感染症の収束に尽力し、健全な居宅運営に取り組みます。

➤ グループホームみなくち

当事業所は、今後も引き続き地域社会に根差し、認知症になっても安心して豊かな生活を営み高度な認知症ケアのサービス提供ができる施設として選んでいただけるよう、下記項目を挙げ実践し、地域における認知症ケアの拠点となるように努めます。

利用者、利用者家族には新型コロナウイルス感染症対策のため、長期に渡り直接的な面会を規制している状況であります。今後も利用者、利用者家族の関係性が疎遠にならないように工夫と努力を継続して行います。また、医療と連携を強化しながら利用者の体調管理を行い、最期まで安心・安楽に過ごせるグループホームを目指します。

- (1) 空床期間を短縮するために次期利用者を選定し、空床が出た場合には速やかに利用していただけるよう努め、待機者がいない場合にはデイサービスセンターあさひがおか

と連携している居宅介護支援事業所と連携できるよう、日頃からの良好な関係づくりを行い、利用率 17.5 名/18 床（約 98%）を目指します。

- (2) 職員一人ひとりが人にやさしく人権の意識を高く持ち、異なる考えや行動に配慮しながら尊重し合える職場を目指し、利用者も職員も笑顔が多い職場環境づくりを行います。
- (2) 朝日が丘地域との関係づくりを密に、災害時における避難訓練や協力体制について話し合い、合同での訓練等が実現できるようにします。
- (3) グループホームでの看取り介護に今後も力を入れ、他職種のチームによる連携の強化、職員の資質向上、マニュアルを含めた看取り介護体制を強化します。
- (4) 認知症ケアに対する学習として、職員全員が認知症介護基礎研修を取得し、知識や技術の向上を図り、介護の質を高めます。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の対策を徹底し、事業所内にウイルスを持ち込まない対策とともに、発生した場合を想定した体制づくりに努めます。
- (6) 利用者と利用者家族とのつながりが疎遠にならないよう、オンライン面会を継続します。また、利用者の日々の様子が利用者家族に伝わり、安心していただけるよう「コロナ禍でもできるサービス」を工夫します。

➤ デイサービスセンターあさひがおか

認知症対応型通所介護事業所として認知症の専門的なケアを行い、利用者の社会的孤立の解消、利用者の心身機能の維持・回復、利用者家族の介護負担の軽減を目指し、利用者が可能な限り住み慣れた自宅または地域で生活を継続できるよう、在宅生活全体を支え守ります。

甲賀市内の認知症対応型通所介護が 5 事業所ある中で、「あさひがおかデイサービス」の特性・個性を活かし、居宅介護支援事業所との良好な関係を築き、柔軟な対応を心がけながら、選んでいただける事業所を目指します。

令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、運営に影響する場面もありましたが、まん延防止することを念頭に、引き続き感染症対策を徹底していきます。

事業所内の様子などをより理解していただくために感染症対策を徹底しながら、見学等も気軽にいただけるよう継続的に広報を行っていきます。

安心パトロールでの近隣警戒時には「八起会」の名と共に「デイサービスセンターあさひがおか」を地域に引き続き存在感を示すように心がけます。また、近隣の小学校や中学校の子どもたちが少しでも地域で安全に過ごせる事への手助けにも力を入れていきます。

- (1) サービス内容の見直しを常に行いながら、目標利用率 55%を目指します。また、令和 4 年度にはサービス提供体制加算が取得できるようより質の高い体制の整備を行います。

す。

- (2) 朝日が丘地域との関係づくりを密に、災害時における避難訓練や協力体制について話し合い、合同での訓練等の実現を目指します。
- (3) 地域の小学校、中学校と連携を図り登下校時などで非常時に遭遇した場合、安心して助けを求められるよう受け入れを行います。
- (4) 認知症関連の研修に積極的に参加して常に最新の認知症ケアが行えるように体制を整えます。また認知症関連や介護関連の相談体制を充実させて、地域に頼られる事業所になるようなサービス展開を行います。
- (5) 居宅介護支援事業所との良好な関係づくりに努め、具体的なサービス内容と空き状況の紹介、新規受け入れ等の相談を随時受け付け「デイサービスセンターあさひがおか」を選んでいただけるよう努めます。
- (6) グループホームとの連携を確立し、合同行事等でデイサービス事業所の活性化を図ります。
- (7) 職員一人ひとりが人に優しく、人権の意識を高く持ち業務に務めます。
- (8) 新型コロナウイルス感染症の対策を徹底しながら、コロナ禍でできるサービスを常に考えより良いサービスの提供に努めます。